

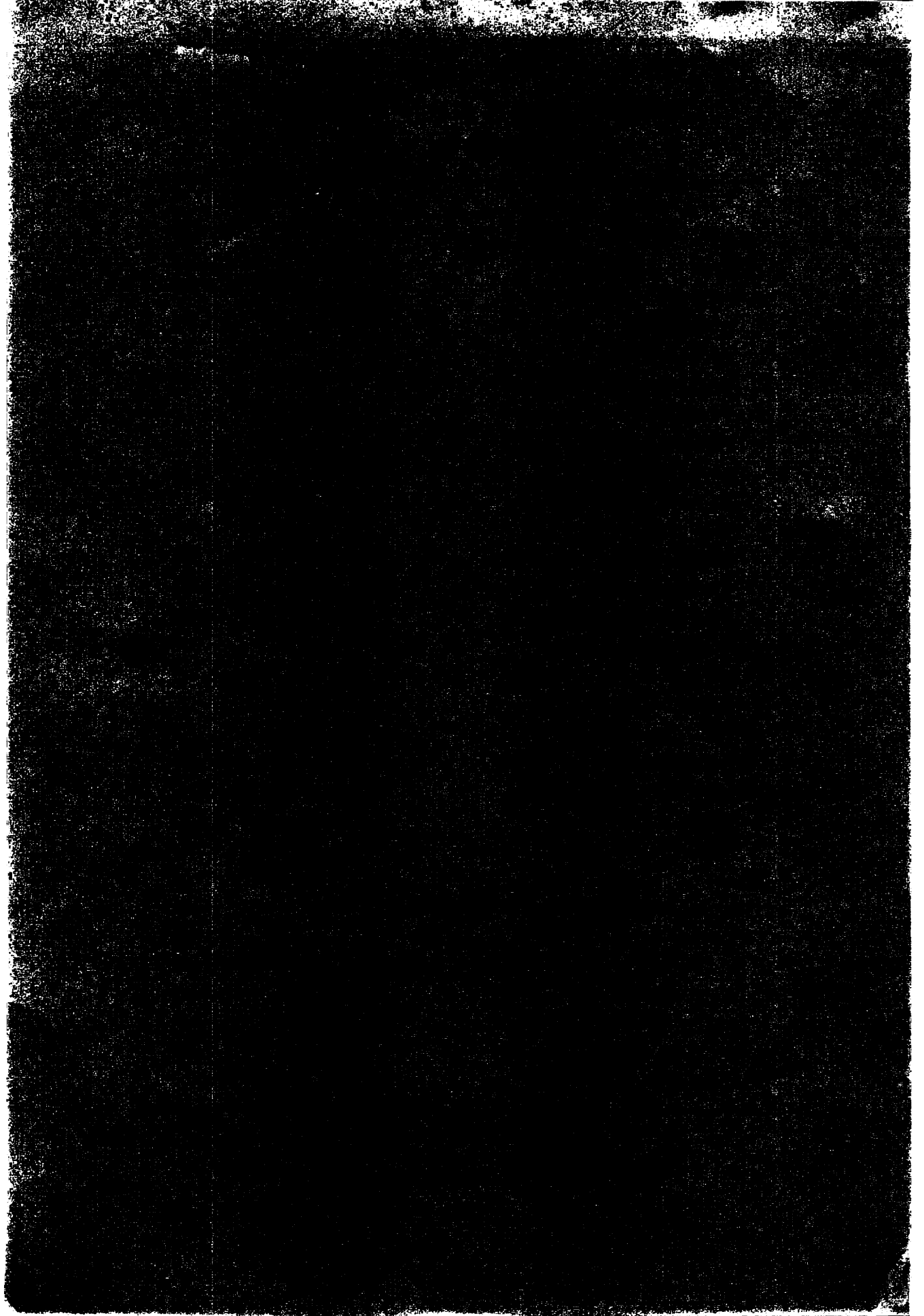
# 学級経営を充実させる学年経営

—— 進路指導を中心に ——

	目	次
I	研究テーマ設定の理由	105
II	研究内容	105
1	学年経営のとらえ方	105
2	学年経営の内容	106
3	学年主任の役割	106
4	本校教育重点目標の具現化の方法	107
5	学年経営案	108
6	学級経営案	109
III	進路指導の意義と理論	111
1	学校教育目標と進路指導	111
2	進路指導の意義	111
3	進路指導の諸活動	111
4	進路指導と学年経営	112
5	目的意識を高める進路指導	112
IV	本校生徒の実態把握	115
1	生徒用アンケート	115
2	父母用アンケート	117
3	考察	118
V	学校教育目標の具現化	119
1	進路指導案	120
2	進路アンケート調査	121
3	考察	122
4	資料	122
VI	進路指導の学年別目標を踏まえての年間指導計画	123
1	第一学年	123
2	第二学年	124
3	第三学年	124
4	評価表	126
VII	まとめと今後の課題	126
	<主な参考文献>	126

浦添市立港川中学校教諭

諸 見 武 彦



# 学級経営を充実させる学年経営

## —— 進路指導を中心に ——

浦添市立港川中学校教諭 諸 見 武 彦

### I 研究テーマ設定の理由

教師にとって自分の学級を持つことは大きな喜びであるが、それなりの責任も大きい。学級経営における担任教師の中には、その持っている個性と創造力で立派な学級経営をする人も多いが、情熱を持ち、懸命に努力していると思うようにいかず、学級経営に行き詰まりを感じている人もいる。こんな時、学年経営が活発になされているれば、行き詰まりは解消されるのではないかと思う。だんだんと学級経営が見直されてきてはいるが、学年会は月一回がせいぜいで、十分に機能しているとはいえない。そこでこの少ない機会をより有効に生かすためには、学年会を効率よく運営し、学年教師の意志の疎通を図り、協力して学年経営に当たることである。

本校の学校教育の重点目標の中に「粘り強く物事を成し遂げる心をつくる」がある。その教育目標の具現化は、活力ある学校、学年、学級経営が根幹となって、あらゆる学校教育活動の中で具現化が図られなければならないと考える。活力ある学校は生徒が目的意識を持ち、学習活動をしている姿から生まれると思う。そこで将来への目標を持たせるために、学年で年間の進路計画の立案をして、進路指導の充実を図った。入学当初は進路に興味、関心も示さなかったが、3学期ごろからは真剣に考えるようになった。生徒自ら目標を持ち、自己実現に向かって努力しようとする現れである。そこには生徒が自覚を持つだけでなく、教師の側から意図的、計画的、継続的進路指導が必要である。生徒が目的意識をもち、自分は何をしなければならないのか、また何が必要かを自己反省し、自己理解を深め目的意識をもって行動するように進路指導していけば、生徒の将来への目標が望ましい姿に変容すると考え、このテーマを設定した。

### II 研究内容

#### 1 学年経営のとらえ方

自律的な経営組織としての学年会は、学年経営の枠内においてではあるが、学年としての目標を設定し、その達成に努めることである。

学年教育目標の設定にあたっては、学校教育目標と学級教育目標との関連を明確にする。学校教育目標の具現化を進めるとともに、個々の学級教育目標の統合につながるように配慮しなければならない。学校教育目標は、期待される子供像を掲げ、学校としての指導方針を示す。これを学年の発達段階の生徒のために順次実現できるように具体化したものである。したがって学校教育目標を組み替え、その具現化を図るためには、各学校においてさまざまな工夫が試みられている。

本校では学校教育目標に「強い身体」「固い意志」「豊かな情操」「確かな判断」の4本柱を立て、さらに細分化して発達段階に応じた学年別の到達目標がつくられている。1年から3年までの学年目標は共通するが、その中で「健康でたくましい生徒」「健康で明るい生徒」

「体を鍛え、健康安全に心がける生徒」とある。こうした具体化の手順になる学年教育目標が用意され、各教科、道徳、特別活動と放課後の部活動などで指導が展開されている。学年経営は学校の教育活動の一環としての学級経営と大きくかかわりを持ち、学校経営の方針に十分反映させなければならない。そこで学年経営が学級経営の中で生かされ、学級活動全体で活用できるように計画立案する。

## 2 学年経営の内容

学年会は、学年経営を効果的に運営するための連絡、調整、協議の場であり、また経営を推進する主体である。

これまで学年会は、学校の方針や計画の伝達機関であったり、進度調整やそのつどの問題の処理、あるいは諸行事の打ち合わせをする程度であった。だが、学年経営を効果的に運営するためには、それらを含めた上で、学年経営の方針や計画を具体的に立てる。その中から課題を見だし、それぞれの学級経営、教科指導、生徒指導などに十分に反映させていかなければならない。そのためには、学年会の運営方法、計画の立て方、実施内容、評価方法などについて学年教師の理解を深め、充実した学年経営の推進を図るよう努めなければならないのである。

### (1) 学年教師を対象とするもの。

人間関係を深めることや目的に沿って効果を高めるための組織化、学年、学級の能率化、教師の研修活動などがある。

### (2) 学年の生徒を対象とするもの

生徒の管理、生徒の組織、教育課程の実施、生活指導や進路、就職等に関する指導などがある。

### (3) 施設、設備に関するもの

学年としての施設、設備、備品の活用

### (4) 父母や学年PTAとの協力に関するもの

学年通信や学年父母会、学年PTAの運営などがある。

### (5) 学校行事の取り組み計画

運動会、学習発表会、校内陸上、遠足、写生大会などがある。

### (6) その他、学年相互の連絡調整に関する領域のもの

学年経営の方針や計画は、これらの領域を考えに入れて立てられるが、それは学校目標、学年目標を達成するために、他学年との連携や連絡調整が必要である。

## 3 学年主任の役割

学年経営のリーダーシップを取るのは学年主任である。学年経営の中心になって学級間の連携、担当学年の生徒一人ひとりにも指導の目が向けられるような計画をしなければならない。学年主任の役割について考えると次のようになる。

### (1) 学年主任は学年のリーダーとして、学年会の運営には教師の意見を十分取り入れ、これを学校経営、学年経営に生かすよう努めなければならない。そのためには日ごろから教師、生徒、父母の実態を的確に把握していることが大切である。

### (2) 他学年とも連絡を取り合う

学年主任は学年経営の計画－実施－評価を学年会を中心に学級に下ろしていける体勢を整え

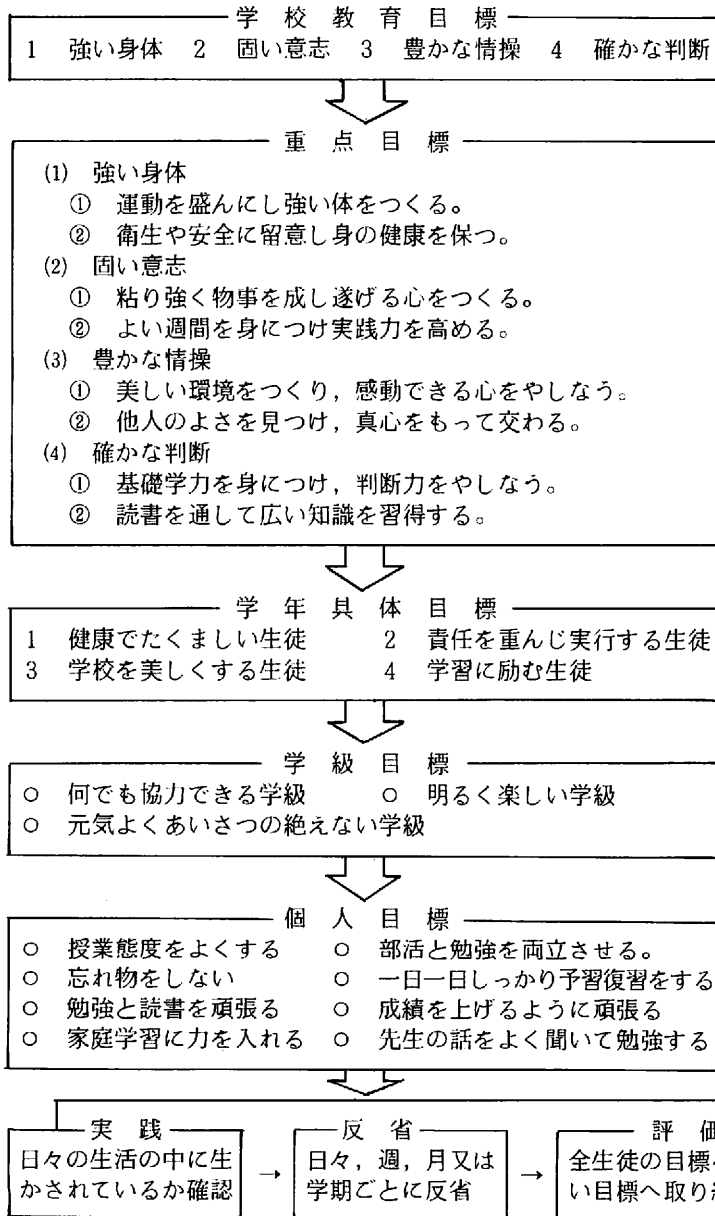
なければならない。また学年にとどまらず、教務主任、生徒指導主事、養護教諭や他の学年主任の協力を得ることも必要である。

(3) 学年教師に対する指導・助言

学年経営はあくまでも学校経営の一環として行われるものである。学年主任は学年経営が学校教育計画の達成をめざすために、校長、教頭とも十分連絡をとって学年運営を図る必要がある。そのためには、学年教育目標の達成をめざして、学年経営計画をしっかりと立案し、学年教師が十分実施できるように指導助言する。

4 本校教育重点目標の具現化の方法

平成2年度 浦添市立港川中学校1年8組の例



左の図は、本校の本年度の重点目標を学年段階でとらえ学年具体目標に生かし、それを学級目標に具現化する方法を示したものである。

学級教育目標の決め方はいろいろな方法があると考えられるが、教育目標、学年目標の実態からでた課題を重点化し、それを学級で取り組んで学級目標を設定する。

学級目標の設定では、生徒全員から募集して、その中から選定して一年間の目標として実践する。

学級目標を基準にして各自の個人目標を毎学期立てさせて実践、反省、評価し、新しい目標の計画をさせる。

各学期末には、評価、反省をし、次学期に向けての取り組みを計画し、実践につないでいく。

5 学年経営案

平成2年度

浦添市立港川中学校 第1学年

経営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の教育目標や重点目標を学年・学級目標に取り入れて、その具現化を図る。</li> <li>○学級経営計画を推進するため学習指導や生活指導の学年統一事項を決める。</li> <li>○学年会を通して共通理解を図り、指導の一貫性を図る。</li> <li>○教室・廊下・学級園の手入れなどの学習環境の整備の充実を図る。</li> <li>○父母・教師との連携を密にして、教育活動の推進にあたる。</li> </ul>					
	長 所		短 所			
生徒の実態	学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業態度はよい。</li> <li>○音楽は大声を出して学習する。</li> <li>○全体集合の動作は機敏である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の意欲があまりない。</li> <li>○学力の個人差が大きい。</li> <li>○学習用具をおいて帰る生徒がいる。</li> </ul>			
	生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○明るく素直である。</li> <li>○よく話しかけあいさつもよい。</li> <li>○全体集合での聞く態度はよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活のけじめがきちっとできていない。</li> <li>○係活動など自主的にやらない。</li> <li>○生徒心得を守らない生徒が多い。</li> </ul>			
学年目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 健康でたくましい生徒。</li> <li>3 学校を美しくする生徒。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>2 責任感を重んじ実行する生徒</li> <li>4 学習に励む生徒。</li> </ul>			
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話をよく聞き、真剣に学習することができる。</li> <li>○係活動や当番活動を自主的にやり、最後まで果たすことができる。</li> </ul>					
具 体 指 導 策	具体的目標	実践行動目標	学期別評価 (A B C)			学年末反省 (項目別)
			1学期	2学期	3学期	
学 習 指 導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な学習態度の育成</li> <li>○基礎学力の育成</li> <li>○自習学習の育成</li> <li>○家庭学習の習慣</li> <li>○授業時間の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 始業の合図を守り、きちんと授業を受ける。</li> <li>2 大きな声であいさつができるようにする。</li> <li>3 朝の読書週間を身につけさせる。</li> <li>4 授業中の聞く態度を養う。</li> <li>5 返事や意志表示がはっきりできるようにする。</li> <li>6 家庭学習の習慣を定着させる。</li> <li>7 予習・復習ができるようにする。</li> </ul>	A	A	A	動作が機敏であった
			A	A	B	声小さくなった
道 徳 指 導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集団の一員としての自覚をもって、自主的・主体的に行動し、よりよい人間関係を深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 基本的生活習慣を身につけ、けじめのある行動ができる生徒。</li> <li>2 きまりを守り、他人に迷惑をかける生徒。</li> <li>3 心と体をきたえ、情操豊かな生徒。</li> </ul>	A	B	B	遅刻者がふえてきた。
			A	A	B	生徒心得の違反者が多い。
			A	A	A	部活動に活発であった。
反 省	1 学 期	2 学 期	3 学 期	学 年 末		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内陸上で全員が協力してよく頑張った。</li> <li>○自主的に読書に励んでいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○親子ミニ運動会が盛大に開催され、大成功でした。</li> <li>○デイキャンプが生徒の計画で実施まででき、よかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○浦添市の基礎力達成テストの実施で生徒の学習意欲が向上した。</li> <li>○卒業式に向けて一鉢運動で丹精こめて花を咲かせた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事、学年行事に積極的に取り組んだ。</li> <li>○読書活動、進級テストは学年で取り組んでよい成果でした。</li> </ul>		

6 学級経営案

平成2年度

浦添市立港川中学校 1年8組 担任 諸見武彦

教育目標並びに重点目標	<p style="text-align: center;">◎ 強 い 身 体</p> <p>○運動を盛んにし強い体をつくる      ○衛生や安全に留意し体の健康を保つ。</p> <p style="text-align: center;">◎ 固 い 意 志</p> <p>○粘り強く物事を成し遂げる心をつくる。      ○よい習慣を身につけ実践力を高める。</p> <p style="text-align: center;">◎ 豊 かな 情 操</p> <p>○美しい環境を作り感動できる心をつくる。○他人のよさを見つけ真心をもって交わる。</p> <p style="text-align: center;">◎ 確 かな 判 断</p> <p>○基礎学力を身につけ判断力を養う。      ○読書を通して広い知識を習得する。</p>						
	<p>学級目標</p> <p>○何でも協力できる学級。 ○元気よくあいさつの絶えない学級。 ○明るく楽しい学級。</p>						
	<p>担任のねがい</p> <p>○係活動に積極的に参加する生徒。 ○自ら進んで学習する生徒。 ○相手の立場をよく考えて行動する生徒。 ○責任をもって最後までやり遂げる生徒。</p>						
	<p>学級経営の重点</p> <p>○学級や学校生活の充実と向上に努力する。 ○個人及び社会の一員としての在り方、学業生活の充実及び健康や安全の認識を育てる。 ○将来の生き方と進路の適切な選択のできる生徒の育成。 ○豊かな心をもち、たくましく行動できる生徒を育てる。</p>						
学級の実態	構 成	男	16	3	2	2	○全員が協力する。 ○自主的に物事をしない。
		女	20	0	2	0	○人情豊かである。 ○係活動に消極的である。
		成 計	36	3	4	2	○男女の仲はとても良い。 ○物事に積極性がない。
	一 般 的 傾 向	好 ま し い 点					好 ま し く な い 点
		学 習 面	○授業態度がよい。 ○発表力がある。 ○朝の読書活動が積極的である。				○置本がある。 ○家庭学習が十分でない。 ○忘れ物が多い。
生 活 面	○身なりが清潔である。 ○元気よくあいさつする。 ○人情豊かである。				○係活動に消極的である。 ○服装違反が少しある。 ○遅刻が目立つ。		

家庭の状況	保護者の職業							家庭の状況			
	サー	自	土	運	会	公	教	教育関心	経済状況	家族構成	
	ビス	営	建	送	社	務	員	①	A	母子家庭が4世帯で生活に大変困っている。 母親は仕事に追われて、学校行事への参加が少なかった。	
環境	4	3	6	1	15	6	1	②	Ⓑ		
指導の努力点と方策	学習指導	○基礎的、基本的事項の徹底を図り、学習指導の工夫・改善をして、生徒にわかる楽しい授業を展開する。 ○自主的に学習活動に取り組む生徒を育てる。 ○家庭学習の習慣を身につけさせる。									評価 B
	道徳教育	○基本的生活習慣を身につけ、けじめのある行動ができる生徒。 ○環境を美化し、情操豊かな生徒。 ○心と体をきたえ、情操豊かな生徒。 ○きまりを守り、他人に迷惑をかけない生徒。									A
	特活指導	○望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。 ○将来の進路の適応能力を育てる。									A
	進路指導	○自分の将来や働くことへの関心を高め、実際に進路の希望や計画をもつようになるとともに、その実現のために自己理解や自己伸長に努める生徒に育てる。 ○中学生としての誇りと自覚をもち、学習の進め方、健康・安全な生活、学級・クラブ・生徒会・学校行事を理解し、その実践に努め、中学生活に適応していく生徒に育てる。									A
	健康・安全指導	○自己の発育発達及び健康状態について把握させ、健康保持増進のできる態度や習慣を養う。 ○日常かかり易い病気や伝染病の予防について必要な知識や態度を養う。 ○自己の健康安全生活を営むのに必要なことがらを身につけさせ、健康習慣を養う。									A
	生活指導	○すべての生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を図る。 ○学校生活が有意義に興味深く、しかも充実したものになるようにする。 ○生徒心得を守り、楽しい学校生活の充実を図る。									B
	教室経営	○正面に学校教育目標、学年目標、学級目標、日課表を掲示する。 ○背面は係活動の役割分担表、生徒の日常の活動状況の様子、給食表、その他を掲示する。 ○机、腰掛け、清掃用具などがきちんと整理整頓ができる学級。									A
家庭との連絡	○学級通信を週2回発行して、生徒の活動の様子を常時知らせる。 ○集団読書の感想文を学級通信に発表したのは好評を得た。 ○集団読書の感想文、学校行事への協力依頼などを学級通信で連絡する。 ○授業参観、PTAで父母と生徒の学校生活の様子を話し合う。									A	



### Ⅲ 進路指導の意義と理論

#### 1 学校教育目標と進路指導

学校における教育目標と進路指導とがどのように関係しているかについて、学校教育法に、中学校については第36条の(2)において「社会に必要な職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」と示されている。また、このたび改訂された新学習指導要領では、中学校は「総則」において進路指導については、

- (1) 学校の教育活動全体を通じて行うこと。
- (2) 適切な生徒理解を深め、個性の伸長を図ること。
- (3) 学校で行う進路指導を計画的、組織的に行うようにすること。

と述べられている。

これらの法令等に示すところに従って、中学校における進路指導は、学校の教育活動全体を通じて行うべきものであり、教育課程の編成に当たっては、それぞれの教育活動が密接な関連を持って進められるように配慮することが必要である。したがって、中学校における進路指導はすべての教育活動を通して、すべての教師がすべての生徒を対象として、適切に指導されなければならない。中学校では教育目標と進路指導とは切り離すことができない関係にある。

#### 2 進路指導の意義

進路指導は「生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通して、生徒が自ら将来の進路の選択、計画をし、就職または進学して、さらにその後の生活によりよく適応し、進歩する能力を伸長するように、教師が組織的、継続的指導・援助する課程である」と文部省、中学校進路指導の手引きで述べている。

学校における進路指導とは、生徒の主体的な進路発達の中で、①将来の進路の選択と計画に必要な能力の育成、②その後の生活によりよく適応し、進歩するのに必要な能力の伸長、③教師が計画的、組織的、継続的に指導・援助する過程である。したがって、進路指導は卒業時の進学の合格指導や就職の配分・斡旋の指導のみでなく、将来をよりよく生きるための「生き方」の指導であり、人間形成を担うものとしての意義をもっているのである。進路指導をこのようにとらえると、学校における進路指導は次のように考えられる。

入学から卒業までの全期間を通して、学級指導における進路学習を中核にして計画する。それは学校の教育活動全体を通して、自己の長所・適性などの理解を深めさせ、進路に関する情報をできるだけ多く与える。一方においては、職業に関する体験を通して勤労観とか職業観を身につけさせ、進路意識を伸長させ、自己の希望職業を選択決定させる。そのための相談を定期的に進めたり、具体的な進路実現の活動への指導・援助をしたり、進学・就職後の適応についての指導・援助を加えなければならない。

#### 3 進路指導の諸活動

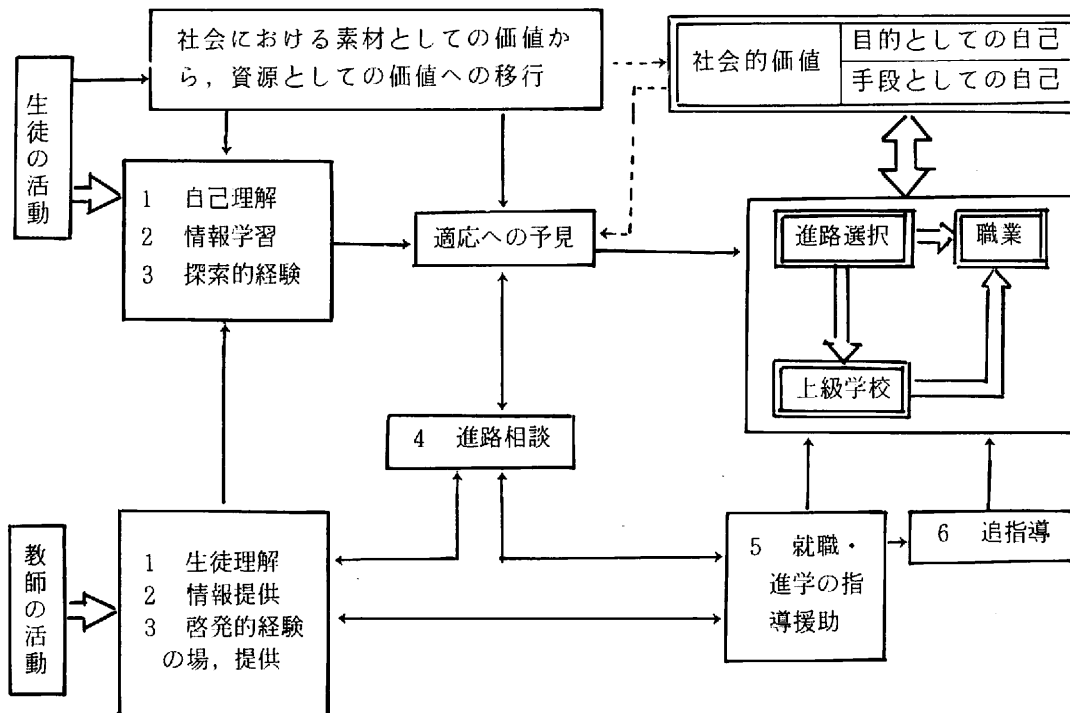
進路指導の活動としては、次の六つの分野が考えられる。

- (1) 生徒理解及び自己理解を深める活動
- (2) 進路に関する情報を得させる活動
- (3) 啓発的経験を得させる活動
- (4) 進路に関する相談の機会を与える活動

(5) 就職や進学に関する指導・援助の活動 (6) 卒業生の追指導に関する活動

これらの活動は、生徒の進路に関する学習の面と、教師の進路指導に対する指導・援助の面との二つに分けられる。この両者が対立的に、また有機的にかみ合って進路指導は効果が上がっていくのである。次の図は、この両者の関係を鳥瞰的に見たものである。

図 1



(注) 図中の番号は、進路指導の諸活動の分野を示す。

4 進路指導と学年経営

学校の教育活動は学級を中心に行われるが、その母体は学年である。学年経営において進路指導を推進するには、学校の教育目標の達成を目指すとともに、個々の学級担任が行う進路指導を学年としてまとまりをもつように調整しなければならない。そのためには学年の経営方針、計画などについて学年の所属する教師の共通理解を図り、学年経営の視点から進路指導を計画的に推進していくことが大切である。

5 目的意識を高める進路指導

目的意識を高める進路指導は、1年生の入学当初から卒業学年までの3年間に及ぶ長期的な指導を行うことが大切である。中学校の進路指導を発達の段階から検討すると、1年生から3年生まで次のように位置づけることができる。即ち、1学年は「自己開発機」の段階に相当し、この段階での進路指導目標は

- (1) 中学生としての誇りと自覚をもち、学習の進め方、健康・安全な生活の仕方、学級・クラブ・生徒会・学校行事での活動の仕方などを進んで理解するとともに、その実践につとめ、中学生活によりよく適応していく生徒に育てる。
- (2) 自己の将来や働くことへの関心を高め、実際に進路の希望や計画をもつようになると共に、その実現のために自己理解や自己伸長に努める生徒に育てる。

2 学年は「生活の充実、進路探索期」の段階で、進路指導目標としては

- (1) 中堅学年としての自覚を持ち、学習や健康・安全の保持・増進に意欲的に取り組むとともに、学級・クラブ・生徒会・学校行事などでの諸活動に積極的に参加し、自分の生き方を考えながらいっそう充実した中学生活を送る生徒に育てる。
- (2) 自分の特色と進路情報を理解し、いっそう明確な進路の希望や計画をもつようになるとともに将来の生き方を考えながら、自分自身でその計画を吟味し、それを実現しようとする生徒に育てる。

3 学年は「進路決定期」の段階で、進路指導目標として

- (1) 最高学年としての自覚をもち、より望ましい学業生活、健康・安全な生活を送るとともに、学級・クラブ・生徒会・学校行事などでの諸活動に模範的に参加し、自分の生き方を探究しながらいっそう充実した中学生活を送る生徒に育てる。
- (2) 自分の特色や希望する進路の情報を確かめ、さらに将来の生き方を考え、自分にふさわしい進路を選択するとともに、その進路において自己実現に努めていく生徒に育てる。

このような進路指導の目標を展開していくためには、当然のことながら、学級指導を中核にしてすべての教育活動の機会や場面を促えて、効果的に実施することが必要である。

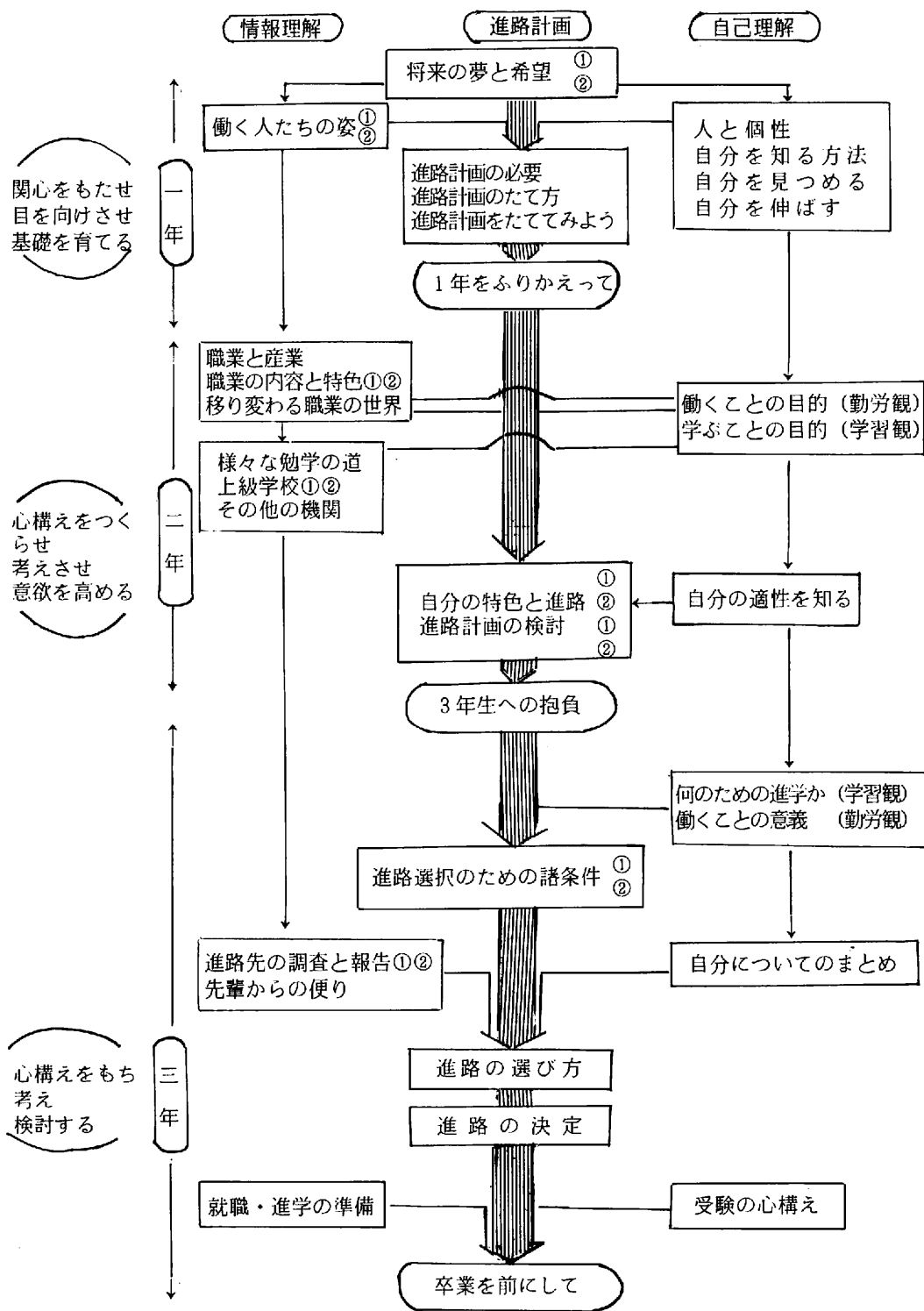
生徒たちの進路設計、人生設計の根幹となるものは、その人の職業観、勉強観、あるいは価値観や人生観であり、「生きがい」や「自己実現」である。生徒は自分で「やりがい」「生きがい」を感じるような対象に向かっていくことが大切である。「生きがい」とは、人間としての生きる目的や、生きていることの意味や価値を問い、自分の生きている理由や、存在理由の本質の意味を追求することにある。

目的を持つことは、生きがいを持つことであり、目的意識の喪失は、生きがい感の喪失ともなる。進路指導においては、特に生徒個々に応じた目的意識を育て、自己有能間を持たせる指導とともに、自分の進路は最終的には自らの責任と判断で、進路選択ができるように指導を高めることが大切である。

入学から卒業までの3年間における指導の流れを図で示すと次の通りである。

◎ 学級活動における進路指導の計画

学級活動における進路指導の題材系統図



#### IV 本校生徒の実態把握

本校の進路指導重点目標は、1学年は自分の将来や働くことへの関心を高め、実際に進路や計画をもつようになるとともに、その実現のために自己理解や自己伸長に努める生徒に育てる。

2学年では、進路を具体的に決める条件の手立てを考えさせ、自分の希望実現のために、積極的に取り組む意欲と態度をつくらせる。

3学年は進路の選択にあたって、自分を知ることの重要性を認識させ、自己理解のために必要な資料をまとめさせるとともに、自分の興味、関心、能力について検討させ、その結果を進路決定に活用させる。

以上の目標の具現化を図るには、生徒の実態を把握するとともに、父母の子供の進路に対する考えを知る必要がある。そこで平成3年4月から6月までに本校の3年生に、高校の学校紹介、先輩たちの動態、進路講習会などの資料で、進路情報通信を20回発行した。進路情報の活用状況の調査のために、本校3年生306名と父母を対象に、平成3年7月にアンケート調査を実施した。その結果は次の通りです。

##### 1 生徒用アンケート

次の各質問に対する答えは、その項目の記号（ア、イ、ウ、エ、オ、カ）の中から一つだけ選んで、その記号を○で囲んでください。

(1) あなたの将来の希望について次の各問いに答えてください。

① 進路について今あなたはどちらを希望していますか。

（ア、進学93.8% イ、就職1.0% ウ、就職進学2.0% エ、未定3.2%）

② ①で進学を希望する人は下記のどの上級学校を希望しますか。（就職進学も含む）

（ア、普通高校78.4% イ、職業高校15.5% ウ、職業訓練校1.7%  
エ、各種学校3.0% オ、無答1.4%）

(2) 進路に関する情報資料について次の各問いに答えなさい。

① 自分が受験できる上級学校について

（ア、知っている52.6% イ、知らない45.8% ウ、無答1.6%）

② 上級学校がどこにあるかについて

（ア、知っている50.7% イ、知らない46.4% ウ、無答2.9%）

③ 上級学校にはどんな学科があるかについて

（ア、知っている58.2% イ、知らない40.8% ウ、無答1.0%）

④ 上級学校にはどんなクラブがあるかについて

（ア、知っている38.6% イ、知らない61.1% ウ、無答0.3%）

⑤ 上級学校の先輩たちの卒業後の進路について

（ア、知っている18.6% イ、知らない81.1% ウ、無答0.3%）

⑥ 上級学校で学ぶことによって取得しやすい職業資格について

（ア、知っている23.2% イ、知らない76.8% ウ、無答0%）

- ⑦ 上級学校の特色（校風，雰囲気など）について  
 （ア，知っている22.9% イ，知らない77.1% ウ，無答0%）
- (3) 進路計画や進路相談について次の各問いに答えなさい。
- ① あなたは自分の希望を実現するための進路計画について  
 （ア，立てている34.0% イ，立てていない65.4% ウ，無答0.6%）
- ② もし上級学校へ行くとしたら，それを決めるのにだれの意見を参考にしますか  
 （ア，父母45.1% イ，兄弟11.1% ウ，友人13.7% エ，先輩8.2%  
 オ，先生17.1% カ，無答4.6%）
- (4) 進路決定の目安について次の各問いに答えなさい。
- ① 進路や就職をする動機や目的がはっきりしていますか  
 （ア，はっきりしている51.0% イ，はっきりしていない47.4% ウ，無答1.6%）
- ② 将来の希望職業（就職）や進路などとも関連づけて考えていますか  
 （ア，考えている54.6% イ，考えていない44.1% ウ，無答1.3%）
- ③ あなたが進路を決定する際，最も目安にすることを次の中から選びなさい。  
 ア，自分の能力，適性にあっているかどうか61.1%  
 イ，自分の学歴で合格できるかどうか26.5%  
 ウ，学級担任や他の教師の指導や意見などによって3.9%  
 エ，通学に便利であるかどうか1.6%  
 オ，親や家族の希望や意見などによって4.3% カ，無答2.6%
- (5) 進路学習について次の各問いに答えなさい。
- ① 進路学習について自分の最も当てはまるものを次の中から選びなさい  
 ア，進路の方向がはっきりした20.3% イ，自分の進路に関心を持つようになった30.0%  
 ウ，悩みの解消に役立った1.6% エ，毎日の生活に張合いが持てるようになった1.3%  
 オ，自分を見直すようになった4.2% カ，自分の将来を考えるようになった35.3%  
 キ，無答6.9%
- ② 本校の進路指導で今後もっとも力を入れてほしいと思うものを選びなさい  
 ア，進路学習や進路についての話し合いをもっと増やしてほしい 16.0%  
 イ，進路についての個人相談をもっと増やしてほしい 18.3%  
 ウ，学級担任がもっと気軽に相談してほしい 17.3%  
 エ，教科の授業でもっと進路（人生）に関する話をしてほしい 16.3%  
 オ，視聴覚教育機器を利用した指導がほしい 18.0%  
 カ，進路についての講話がほしい 3.3%  
 キ，無答 10.8%
- ③ 進路指導講演会を開いて  
 （ア，大変参考になった9.2% イ，参考になった46.4%  
 ウ，わからない41.8% エ，無答2.6%）

## 2 父母用アンケート (188名)

次の各質問に対する答えは、その項目の記号(ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ)の中から一つだけ選んで、その記号を○で囲んでください。

- (1) あなたは、子供の中学校卒業後の進路をどのように考えていますか。  
ア、高校進学させたい100% イ、各種学校に行かせたい ウ、就職させたい
- (2) あなたが子供を高校へ進学させるとしたらどの学校を望みますか。  
ア、普通高校84.4% イ、工業高校6.6% ウ、商業高校7.8%  
エ、水産高校 オ、農林高校 カ、専門学校0.6% キ、無答0.6%
- (3) あなたが子供を高校へ進学させる場合、理由は何ですか。  
ア、もっと広い知識を身に付けさせたい 48.9% イ、大学へ進学させたい 26.1%  
ウ、本人の希望する職業の技術を身に付けさせたい 17.8%  
エ、就職に有利だから 3.9% オ、高校卒業の資格をとらせたい 2.7%  
カ、ほとんどの人が高校に行くから キ、家業を継がせたいから  
ク、無答0.6%
- (4) あなたが子供を進学させるとしたらどの学校まで進学させたいと思っていますか。  
ア、高校11.1% イ、短大22.2% ウ、大学62.8% エ、大学院3.9%
- (5) あなたは現在子供についてどの程度知っていますか。次の各項目について教えてください。
- ① 子供の学力がどのくらいか知っていますか  
ア、よく知っている35.6% イ、ある程度知っている64.4% ウ、よく分からない
- ② 子供の性格についてどの程度知っていますか  
ア、よく知っている63.9% イ、ある程度知っている33.9% ウ、よく分からない2.2%
- ③ 子供の体力や健康についてどの程度知っていますか  
ア、よく知っている72.2% イ、ある程度知っている26.1% ウ、よく分からない1.7%
- ④ 子供の長所や、どんな職業や仕事に適しているか知っていますか  
ア、よく知っている21.6% イ、ある程度知っている62.8%  
ウ、よく分からない13.9% エ、無答1.7%
- ⑤ 子供が日常どんな事に興味や関心を持っているか知っていますか  
ア、よく知っている27.2% イ、ある程度知っている57.8%  
ウ、よく分からない27.2% エ、無答1.7%
- (6) あなたは、将来どのような考えで子供に職業を選ばせたいと思いますか。  
ア、安定した職業であり、将来も有望な職業 36.7%  
イ、収入がよい職業 0.6%  
ウ、能力や性格にあっている職業 46.7%  
エ、いきがいのある職業 8.3%  
オ、将来独立して仕事ができる職業 2.7%  
カ、他人に束縛されない職業 0%  
キ、社会に貢献することができる職業 5.0%

(7) あなたが子供を進学させるとしたら志望校を決める場合、どのようなことを目安に決めますか。

- ア、子供の学力で合格できるかどうか 30.0% イ、進学に便利であるかどうか 1.7%
- ウ、子供の能力や性格にあっているかどうか 56.6%
- エ、校風や学校の評判などによって 3.9%
- オ、学級担任の進路情報や意見などによって 6.1% カ、無答1.7%

(8) あなたは子供の教育のことで、学校や先生方に特に何を望みますか。

- ア、基礎的、基本的事項についての指導をもっと徹底してほしい 28.9%
- イ、主体的な学習方法の指導をもっと徹底してほしい 13.9%
- ウ、人間の生き方、在り方についての指導をもっと徹底してほしい 16.6%
- エ、進路指導や進路相談をもっと充実させてほしい 6.7%
- オ、子供の相談相手になってほしい 6.7%
- カ、もっと、しつけの面に力を入れてほしい 1.7%
- キ、のびのびと個性や才能を伸ばしてほしい 23.3% ク、無答2.2%

### 3 考察(生徒用アンケート)

- (1) ①では進学93.8%、普通高校78.4%で、職業高校その他への進学希望者は少ない。
- (2) ②では受験する上級学校の様子を知っている生徒が半数程度である。進路情報資料提供が不十分といえる。また学校の内容、特色、先輩の進路について知らないが61%で学校訪問、体験入学時、資料を提供して、生徒が十分進路選択をできるよう積極的な指導が必要である。
- (3) ③では将来に意識をもたせ計画させる。また教師との相談ができる学級づくりが大切である。
- (4) ④では半数以上が将来の希望職業と関連づけて考えているので、今後その態度を育てる。
- (5) ⑤では生徒の進路意識を育てるため、進路学習の継続的指導が必要である。

#### 考察(父母用アンケート)

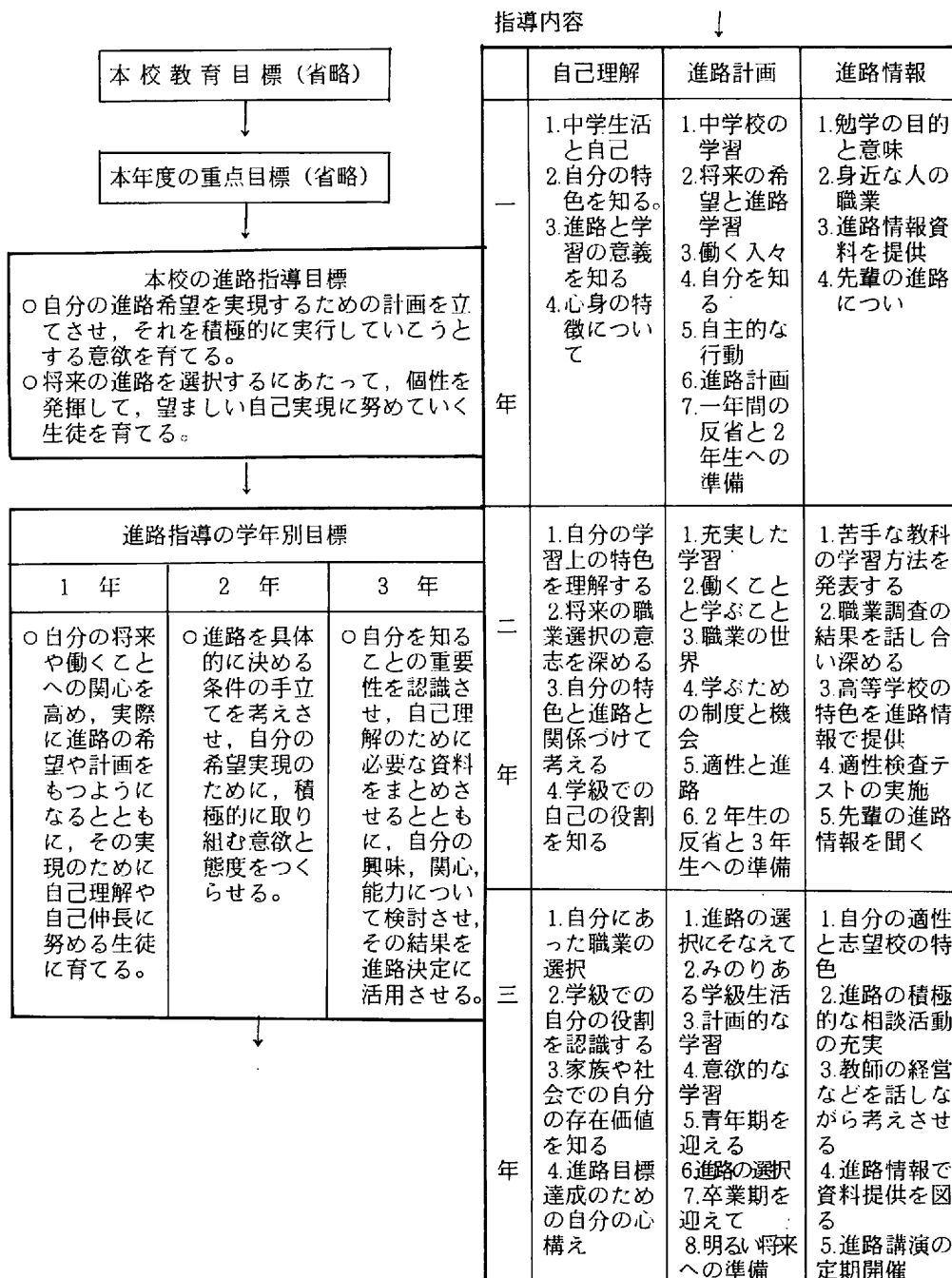
- (1) ①では高校まで準義務教育であり、社会に適応させる必要条件と考えている。
- (2) ②では普通高校と職業高校の差が大きく、高学歴を子供に期待している。
- (3) ③④では父母は高学歴を望み、将来広い知識を身につけ、りっぱな社会人になるよう希望している。
- (4) ⑤では子供について「よく知っている」と「ある程度知っている」で90%に達している。
- (5) ⑥では子供が将来能力や性格にあった安定した職業を選び、幸福な人生を送ることを願っている。
- (6) ⑦では子供の能力や適性を第一に考えたいという意見が56.6%を示している。
- (7) ⑧では基礎的、基本的事項と個性や才能を伸ばし、実社会に出て役立つような力をつけてほしい(61%)

生徒と父母のアンケートの結果をまとめ、別々に考察した。生徒の進路をどうするか。または生徒の進路がどうなるかは父母にとって重大な問題である。したがって生徒の進路指導は、家庭と教師の連携を大切にすることである。学校は生徒、父母の期待に答える意味でも進路情報の提供、進路学習の授業の改善を図る必要がある。それは生徒の将来を考えた生徒のための進路指導になる。



## V 学校教育目標の具現化

中学校における進路指導は「学習指導要領の総則9の(2)に示されているように、各教科、道徳、特別活動など教育過程の全領域を通して指導する」とある。教師の意図的、計画的、継続的な指導を通して、将来の職業選択ができる態度を培う。そのため学校教育目標や生徒の実態を検討し、学年、学校の指導目標を立て、進路指導の目標を完全に達成することである。学校教育目標から進路指導への流れ（具現化）を見てみたい。



# 進路指導案

日 時：平成3年2月18日  
 学 級：港川中学校1年8組  
 男16名 女20名  
 指導者：諸 見 武 彦

- 1 単 元 名 進路計画
- 2 指 導 目 標 進路計画の必要性
- 3 学級の実態

男子はおとなしく、女子はおしゃべりであるが、学級の雰囲気はまとまりがある。今回で8回目の進路指導の授業で、生徒の将来の希望職種がほぼ把握できた。指導の回を重ねるごとに興味、関心を示し、熱心に発表するようになった。

題目	自分の進路希望を確かめよう			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 将来の進路希望を実現させるためには、適切な進路計画が必要であり、また計画を推進していく努力が必要なることを理解させる。</li> <li>○ 進路希望計画は固定的なものではなく、必要に応じてよりよいものに変更・修正していくべきものであることを理解させる。</li> </ul>			
準備	資1, 進路希望アンケート 資2, 自分の将来の「進路希望」の作文例 資3, 自校の進路状況 資4, 中学校卒業後の進路図			
配時	活動	活動内容例	指導上の留意事項	資料
5分	1 自分	(1)3学期に書いた「将来の希望」を読む。	○2回の進路希望調査で、希望職業が変わった生徒を確かめる。	資料1
20分	路希望を確かめよう	(2)テキストP75～76の「希望職業が変わった人も多い」を読んで、自分の希望職業や進路計画について ①変更があったかどうか。 ②変更があれば、その理由は何かなどを考え、ノートにまとめさせる。	○変更の理由をまとめておき、OHPなどで説明する。 ○進路計画がなぜ変わっていくのかに気づかせる。 ○適切なものがあつたら、数例を発表させる。	資料2
10分	2 進路計画の必要性	(1)テキストP76の「進路計画の必要性を考えよう」の前半を読んで、進路計画とは何かを考え、ノートにまとめる。	○進路計画とは何かをノートにまとめさせ、さらに進路計画はなぜ必要かを考えさせる。	資料3
15分	を考えよう。	(2)テキストP77の「進路計画なんて考えられない」を読んで、このような人たちへの助言を考える。	○こういう考えにはどのような問題があるかグループで話し合い、意見をまとめて発表させる。	資料4
5分		(3)進路計画は、これからの進路学習で達成されることについて教師の説明を聞く。	○家族と話し合ったり、先輩の経験談も聞いて参考にすることも大切であることを付け加える。	

# 進路アンケート調査

調査期日：平成3年2月14日

調査方法：質問紙法

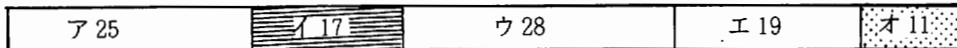
調査対象：1年8組 男16名 女20名

次の各質問に対する答えは、その項目の記号の中から一つだけ選んで○で囲んでください。

1 あなたは将来どんな職業を希望しますか。

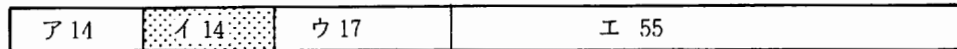
- ア、事務の職業 (会社, 官公庁, 銀行)
- イ、サービスの職業 (美容師, ガイド, スチュワーデス)
- ウ、技術者としての職業 (建築技師, 電気技師, 機械, コンピューター)
- エ、医療保険の職業 (医師, 薬剤師, 看護婦, 栄養士)
- オ、教育の職業 (保育所, 幼稚園, 小中高校の教員)
- カ、その他 (裁判官, 弁護士, 作家, 新聞記者)

(単位：%)



2 あなたが高校へ進学したいと思う理由は何ですか。

- ア、みんなが行くから
- イ、両親が進めるから
- ウ、大学へ進みたいから
- エ、高校を出た方が就職に有利であると思うから



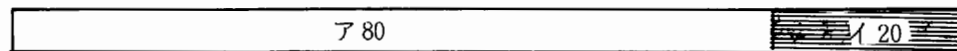
3 あなたは進路についてだれと相談していますか。

- ア、父母
- イ、兄姉
- ウ、友達
- エ、先輩
- オ、先生



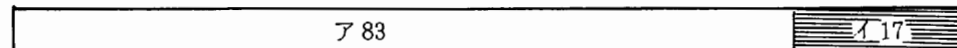
4 あなたは学級指導：学級活動などで行う進路の学習に関心をもっていますか。

- ア、関心をもって学習している
- イ、別に関心をもたない
- ウ、進路学習はやめて別の教科学習をする方がよい



5 あなたは学校での進路学習が；あなたの進路を考える上で参考になっていると思いますか。

- ア、大変参考になっている
- イ、少し参考になっている
- ウ、あまり参考になっていない



### 3 考察（進路アンケート調査）

- 1 では男子が技術者としての職業，女子はサービスの職業の希望が高い。
- 2 では高校に進学して知識技能を身につけ，自己の能力が十分に発揮できる職業を希望している。
- 3 では教師との相談が半数以上いる。そのことは，進路指導の時間を設定して実践した成果である。
- 4 では入学当初から進路指導計画通り視聴覚機器等での授業，進路情報提供の指導で成果をあげた。
- 5 では進路指導の継続で生徒が自分の将来の問題として意識を持って学習するようになった。

以上の調査結果を直視する，生徒の進路意識は進路学習によって向上する。学級指導，個別面接で生徒一人ひとりが持っている能力，適性のよいところを見つけてやり，育成していくことが望ましい進路指導といえる。また父母にも生徒の将来の進路希望を知ってもらうためにアンケートの結果を学級PTAの三者面談の資料として活用している。

#### 「進路希望」の作文（K君）

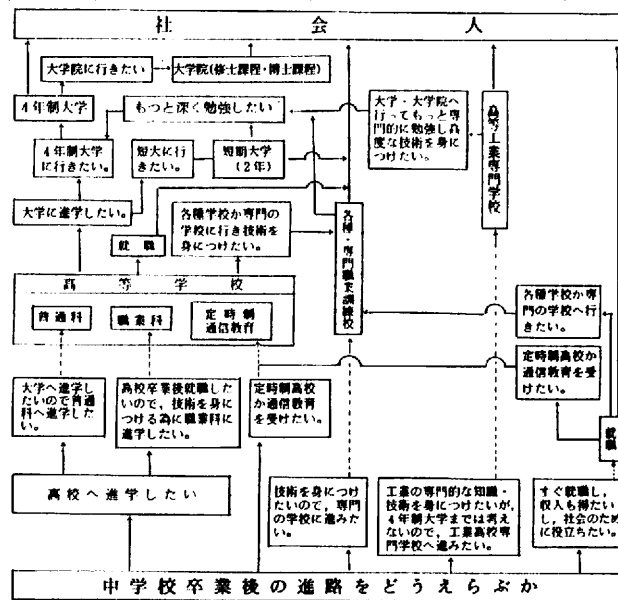
ぼくは小学校のとき，ぜん息のためやりたいことができなかつたが，今はバレー部に入って練習で体をきたえている。ぼくは体が弱く，将来父の仕事をつぐことを考えていた。しかし，入学してから先生が進路の授業で「進路は自分の適性に合う職業がよい」といったので変わった。ぼくは一生懸命勉強して，ぼくと同じ病気をもって悩んでいる人々のために医者になる決心をした。

#### 「進路希望の作文」（B子さん）

私は小学校のころから，「将来はスチュワーデス」になって大空を飛んでみたい」と夢もっていた。それはかっこうよく，英語もペラペラである。私の部屋はスチュワーデスの写真でいっぱいになった。中学校に入って部活動をするようになったら，学校の先生がよいと思った。毎日生徒に勉強を教えたり，部活動の指導も遅くまでやっている。私は将来体育の先生になって，いろいろな部を持って生徒にスポーツを教える。これが私の将来の夢である。

### 4 資料 自校の進路状況

- 1, 普通科 74.2%
  - 2, 工業高校 12.0%
  - 3, 商業高校 13.4%
  - 4, 水産高校 0.4%
- 中学校卒業後の進路図



VI 進路指導の学年別目標を踏まえての年間指導計画(テキスト：中学生活と進路)

1 第一学年

学期	主題(時数)	指導目標	指導内容
1	中学校の学習 (1)	1 学習の目標と心構え 2 計画的な学習 3 学習工法の工夫	○学習内容の理解と自主的学習の大切さを考えさせ、学習計画を立てさせる ○計画を実行するときの心構えを話し合わせる。 ○予習、復習の体験談を発表させる。
	将来の希望と進路の学習 (1)	1 私たちの将来の希望 2 進路学習	○中学校卒業後の進路にはさまざまなものがあり、より広い視野にたって進路を考える必要があることを理解させる ○各自がもっている将来の希望は、どのようにしたら実現できるか考える。
2	働く人びと (1)	1 働く人びとの姿 2 働く人たちの仕事と考え	○テキストの9つの職業を調べ、その違いをグループごとに発表させる。 ○仕事に対する働く人びとの考えを、さらに詳しく調べるための計画を、グループごとに立てる。
	自分を知る (1)	1 人と個性 2 自分の特色	○テキストP61「自分を知ることの意味」を読み、自分の特色を知ることの大切さを発表させる。 ○前時でまとめた「自分の特色」についての感想をグループごとで話し合ってみる。
3	自主的な行動 (1)	1 中学生としての自覚 2 集団の一員としての心構え	○テキストP71を読んで、自主的に行動するということはどういう意味なのか、小学校の時と今との違う点をあげながら考える。 ○だれとでも仲良くつきあうことによって、何が得られるか、考えを発表する。
	進路計画 (1)	1 進路計画の必要性 2 進路計画の立て方	○テキストP76の「進路計画の必要性を考えよう」を読んで進路計画とは何かを考え、ノートにまとめる。 ○これまでの自分の将来の希望や進路調査を基に、実際に進路計画を書く。
	1年間の反省と2年生への準備 (1)	1 1年間の振り返って 2 選択教材の選び方	○この1年間の振り返って、特に強く感じたことを話し合う。 ○2年生、3年生に選択教材がおかれる理由や、選択教科の種類などについて教師の説明を聞く。

第二学年

学期	主題(時数)	指導目標	指導内容
1	充実した学習 (1)	1 学習生活の反省と改善 2 効果的な学習	○テキストP14の「ある班の話し合いから」を読み、気づいたことを発表させる。 ○苦手な教科をなくすにはどうしたらよいかを発表し合い、具体策を考える。
	働くことと学ぶこと (1)	1 働くことの意味と意義 2 学ぶことの意味と意義	○テキストP19のT君、Kさんの意見を読み、「人が職業について働くのは何のためか」について、学級全員で話し合う。 ○自分はどんな考えで勉強(進学)するか、改めて考え、ノートに目的と意義にまとめる。
2	職業の世界 (1)	1 職業産業 2 職業の内容と特色	○テキストP37、38を読み産業と職業の違いについて話し合う。 ○グループで調査した職業について発表する。人を相手にして働く職業・物を相手にして働く職業・事務をとる職業・資株や免許などを必要とする職業・電子機器を扱う職業。
	学ぶための制度と機会 (2)	1 勉学の道 2 高等学校 高等専門学校	○中学校卒業後の機会にはどのようなものがあるか、グループで話し合い、発表する。 ○高等学校の学科とその特色について調べたことを発表し、話し合う。学科の特徴・校風の特色・卒業生の進路状況・取得できる免許や資格・この学科を選ぶ場合の必要条件。
3	適性と進路 (1)	1 自分の適性 2 自分の特色と進路 3 進路計画の検討と吟味	○テキストP67～69の「保母を目指したいBさんの希望」「Bさんの希望についてーみんなの感想」を読み、感想をグループごとにまとめ、代表が発表する。 ○A君の場合を参考にしながら、自分の特色をできるだけ細かくノートにまとめる。 ○テキストP79～80の「自分の進路計画を検討しよう」を読み、3人の進路計画について、感想をグループで話し合い、発表する。
	2年生の反省と3年生への準備 (1)	1 1年間の反省 2 3年生への準備	○グループごとに、この1年間の学級内の諸活動への取り組み方、学校行事への参加態度などについて話し合う。 ○テキストP83の「3年生になる心構えーあるクラスの話し合いから」を読み、グループ、個人ごとに感想を述べ合い発表する。

第三学年

学期	主題(時数)	指導目標	指導内容
1	進路の選択 進路の選択にそなえて (1)	1 将来の生き方を考える 2 卒業生の体験に学ぶ	○人は何のために職業につくのか、グループで話し合って発表する。また、自分はどのような職業生活を望んでいるかまとめる。 ○テキストのB君の事例P13「進路情報の収集がみのったーB君」から学ぶべきことは何か、感想についてグループで話し合う。

1	みのりある 学級生活 (1)	1 学級生活の 充実 2 学級生活の 改善	○テキスト P24～25の活動目標と組織の検討にそって、自分たちの学級について反省する。 ○うまく活動できていない面の原因を話し合い、学級の一員としてどうあるべきかを考え、発表する。
	計画的な学 習 (1)	1 3年生とし ての学習 2 学習の要点 と年間計画	○学習計画や態度、方法を改善するには、まず自分で反省してみることが必要であることを考える。 ○テキスト P34「K君の年間計画」を参考にしながら、各自が学習計画を立てる。
2	意欲的な学 習 (1)	1 効果を高め る学習 2 学習上の問 題の解決	○テキスト P42「家庭学習の計画－A君の場合」を読む。 ○どうしたら苦手な教科を克服できるかをみんなで話し合いそれをもとにして、自分の解決策を考える。
	青年期を迎 える (1)	1 青年期の自 覚 2 社会の一員 としての生 き方 3 青年期の悩 みと解決	○テキスト P48の「自分がわからない－Rさん」を読み、何人かの生徒が感想を発表する。 ○家族の一員として、社会の一員として、いま自分にできることは何か、ノートにまとめ発表する。 ○人間の苦しい時、困難にぶつかった時の解決の方法について、テキスト P52を参考に話し合う。
	進路の選択 (2)	1 自分につい てのまとめ 2 進路先の調 査 3 進路計画の 最終検討と 進路の選択 4 進学・就職 の準備と実 現への努力	○テキスト P56～57の「自分についてのまとめ」（A君の場合）を読む。 ○自分の希望する上級学校・学科を調べる必要性を考える。 ○自分のこれまでの進路希望・計画に問題点があるかどうかを考え、進路相談が必要であれば、教師に申し出る。 ○進路実現に向けて、準備は自分自身で行うべきことを、話し合っただけで確かめる。
3	卒業期を迎 えて (1)	1 卒業までの 生活 2 中学生活の まとめ	○自分は、残り少ない生活をどのようにして送ろうとしているかを発表する。 ○テキスト P74「中学生活で印象に残ったこと－Eさん」を読む。
	明るい将来 への準備 (1)	1 将来の生活 への心構え 2 希望にあふ れて	○テキスト P77～80の4人の事例を読み、先輩の生活体験から、どのようなことがわかったか発表する。 ○進路の第一歩をどんな決意で踏み出そうとしているかを話し合わせる。

#### 4 評価表

観点 分類	評 価 の 観 点	評 定			
		A	B	C	D
(P) 計 画	1 進路指導の目標が設定されているか。				
	2 進路指導計画は適切に設定されているか。				
	3 進路資料適性検査が準備されているか。				
(D) 実 施	1 進路計画は全教師の共通理解を図ったか。				
	2 進路指導の目標を踏まえて努力点が達成できたか。				
	3 進路指導は計画的に実施され、効果が上がったか。				
(S) 評 価	1 全体計画に基づいて進路指導が取り組めたか。				
	2 指導結果と反省の評価が行われたか。				
	3 生徒の自己評価を行い、指導の改善に役立てたか。				

#### Ⅶ まとめと今後の課題

一人一人の生徒が将来の進路計画を立て、自己実現ができるよう援助しようと考え、学級での進路指導の視点から「学級経営を充実させる学年経営」をテーマに研究を深めてきた。

- (1) 学級経営の充実のためには、学校教育目標の具現化を図り、学年目標、学級目標への系統化の中での進路指導はどうだったか。
- (2) 進路指導は一年から進路年間計画に沿って実施することで進路意識の高揚が図れる。
- (3) 生徒、父母対象のアンケートは学校現場で今後の資料として活用する。

今後の課題としては、教師が進路指導の意義を理解して、生徒の自己実現のために、進路情報資料を提供し、系統的、計画的に進路指導を実践することである。

以上のようなまとめを踏まえ、学校での進路指導の充実の高揚を図り、生徒が変容する教育活動を実践する。

#### 《主な参考文献》

- |               |               |          |        |       |
|---------------|---------------|----------|--------|-------|
| 吉本二郎・永岡 順     | 「学年・学級経営」     | 現代学校教育全集 | ぎょうせい  | 1984年 |
| 堀 久・水戸谷貞夫     | 「進路指導実務必携」    |          | 第一法規   | 1987年 |
| 下村哲夫          | 「学年・学級経営」     | 教育学大全集   | 第一法規   | 1984年 |
| 沖縄県教育庁        | 「進路指導」        | 進路情報資料   | 義務教育科  | 1987年 |
| 沖縄県中学校進路指導研究会 | 共編 「中学生生活と進路」 | 文部省学習指導  | 実業之日本社 | 1990年 |
| 日本進路指導協会      |               |          |        |       |
| 沖縄県立教育センター    | 「研修報告集録」      |          |        |       |
| 港川中学校         | 「年間計画」        | 平成三年度    |        | 1991年 |